



3回生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、第138回 大阪精神科診療所協会市民講演会・第20回 みなとこころの講座に参加させていただきました。

テーマは【自分らしく暮らすためのメンタルヘルス】北浜クリニックの院長 瀬浦先生よりお話を伺いました。



参加した3回生の感想



- ストレスというテーマのため、精神疾患に馴染みのない市民のみなさんにとっても聞きやすかったのでは、と感じた。講座は投げかける終わり方をされていたので、参加者全員にとって考えるきっかけになったと思う。
- 精神科は症状が重い方だけが受診するところと思っていたが、そうではないことに気づいた。
- うつ病だけを抱えて働いている方は自分が思っていたよりも少ないことを学んだ。
- 私はストレスを抱えやすく、体調にも出やすいと自覚しています。講座の中で印象的であったのは、薬に重きを置くのではなく、認知行動療法やマインドフルネスが有効であること。また、クリニックの写真も見ることができ、参加されている市民の方々にとって精神科や心療内科の印象が変わったのではないかな、と感じました。
- 自分自身も悩むことがあり、講座の内容はグサツときた。講座内の質疑応答では、このように答えるのではないかと自身で考えた内容と異なる回答をされており、初対面の関係性にも関わらずしっかりと考えて対応されていることに驚いた。

参加をお受けいただきました主催者のみなさま、瀬浦先生、難波様、大堀様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

講演後は、主催機関の1つである特定非営利活動法人障害者の福祉を進める会などにおいて、精神保健福祉士として従事されている難波様と大堀様に学生からの質疑応答をお答えいただきました。その一部をご紹介します。



- Q1: 就労支援の現場において、精神保健福祉士の方が日頃心がけていることや注意していることがあれば教えてください。
- A1: 難波様: 本人の強み、課題をしっかりとアセスメントすること。障害者就業・生活支援センターやハローワークに繋げるようになるため、ご本人のセールスポイントをしっかりと伝えられるようにする。
大堀様: みんなが同じ考え方を持って接すること(統一した支援をすること)。
- Q2: 症状が悪化してしまい、就労継続支援B型事業所に通所ができなくなった方の援助は行っていますか？
- A2: あくまでも通所されている方へのサービスとなるため、通所できなくなった方への援助は行っていません。しかしながら、ヘルパーや訪問看護、主治医や地域の関係者など関係者と情報共有し、なるべく孤立しないような働きかけは行っています。